

# ジェット化 1年



民家密集地の上空を避ける飛行コースも騒音軽減のひとつ

## 地元の納得いく騒音対策を

騒音対策では、ジェット化前、理論騒音コンターに基づいて、ジェット機三種（B777、B737、DC9）十便とYS機二十二便が飛んだと仮定して、やかましさを数値（WECPNL）荷重等価平均感覚騒音レベルを算出。この数値によって第一種（七五以上）、第二種（九〇以上）、第三種（九五以上）に区域指定がなされ、民家防音工事（住宅騒音防止対策事業）を五十七年、五十八年度で十五億四千万円かけて、対象の四百七十六戸

昨年十二月十六日、高知空港の新装も成り、待望のジェット機が就航して早へも一年。新滑走路は全長一千呎、幅四十五呎で、これまでより五百呎長くなりました。現在、保安施設の整備が進められ、全面完成は六十一年三月の予定です。ジェット化で、東京へ七十分、福岡五十五分、名古屋五十分と時間が短縮され、観光や臨空型農水産業、工業の発展に期待が高まり、高速大量輸送のターゲットを切りました。しかし、全面完成に向けて騒音対策の問題や、臨空型農業の推進など、地元にある空港をどう利用していくか課題は多く残っています。

## 空港を生かし

### 企業誘致へ

ジェット化に伴い、大都市圏との時間的な距離が短縮され、乗客を一度に大量に運べるようになり、県外からの観光客も増えています。しかし、市では地元空港が活きながら、これを十分に生かしているとはいえず、高知市など近隣市町村への通過地点になっているのが実情です。市挙げてのイベントを開催するなど、施設も含めた魅力ある観光開発が望まれています。

産業発展のため、地の利を生かした臨空型農水産業、公害のない付加価値の高い企業誘致もこれからの

大きな課題です。

企業が進出する条件として、空港から一時間程度の範囲に、土地水、労働力などを備えており、また、従業員や家族のためのショッピングセンターやレクリエーション施設などの都市的機能が充実していることも必要です。

今後、そういった受け皿を整備していくことが、企業誘致の可能性を高めるといえます。

## 空輸品目は

### 価格が問題

ジェット化に伴い、期待される園芸品の航空機利用は、トラック輸送に比べ輸送費が割高になるの

品目に限られます。県園芸連南支所の話では、鮮度からみれば、名古屋以西はトラック便で十分ということ、航空機輸送はすべて東京便。現在、市関係では、オオバを日量二百三十百ケース空輸しています。ジェット化以前大阪経由で出荷していたときより輸送費は割安になったものの、トラック輸送に比べると、まだ二倍近くかかっています。そのほか、菜花、こじそう、みょうが、ゆずなどは航空機を利用しています。県下には、ヤッコネギなどの伸びがみられ、シントウ、オクラについては去年の春から夏の間と今年の四月から十月にかけて日量五四〇、九〇〇、〇〇を試験的に空輸しました。日持ちや新鮮さで評判が良く、それが、その後の価格に結びつけば、期待がもてること。今後、航空輸送を前提とした新品目の開発の可能性はありますが、需要に左右されるし、単価の安い品目はメリットが少なく、一般的な品目は県外産地との競合もあります。また、東京便のダイヤが定まらないと、集荷作業や到着後の配達時間からみて鮮度のメリットも出ないほど、いろいろな問題が残っており、生産者と関係機関のいっそうの努力が望まれます。

に実施しました。

しかし、実際にジェット機が飛び出すと、指定区域内外から「思ったより騒音がひどい」などといった声が出ています。

県では五十九年一月から二十三年カ所で、四季を通じた騒音の実態調査を実施し、十月に完了しました。調査結果は来年三月末までに公表される予定で、現在の線引きに不都合があれば、騒音対策区域の見直しを国に働きかけることを約束していますが、現実には大幅な便数の増加でもない限り、見直しは難しいようです。

また、民家防音工事の一方で、民家密集地の上空を避ける飛行コースの設定や飛行方式、低騒音の飛行機の導入などが騒音対策の課

題になっています。

今年十月二十三日には、騒音問題をより専門的に研究するため、県の高知空港航空機騒音軽減対策等研究会（会長＝守田栄航空公害研究センター所長）が発足しました。専門家も加わり優先滑走路方式、飛行コースも含め、これから二年間をめどに航空の安全性、周辺の環境など、すべての問題を専門的、総合的に検討されることになっており、住民が納得できる騒音対策が急がれています。

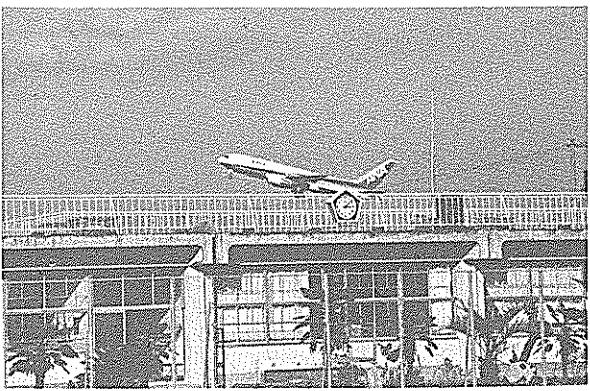
## 大湊小の防音

### 六十年度に

五十八年度までに、ジェット化に伴う騒音対策事業として共同利用施設三カ所を新築。環境整備事業で公民館を九カ所整備。現在、関共同利用施設の新築工事が行われています。

学校施設の防音工事は、現在、大湊小と香長中がほぼ完了する見

60年度に防音工事が予定されている大湊小学校



通しで、残されていた大湊小については、六十年度に取掛かる予定です。

ジェット化一年を振り返ってみると、騒音対策や吾岡山の公園化など、まだまだ残された問題も多くあります。また、企業誘致や農業にどう生かしているか、その取り組みはあまり進んでいません。ジェット化をどう生かしていくか、これからの対応にかかっていると